



編集発行 南薩地域振興局農林水産部農政普及課
南薩地域振興局農林水産部農政普及課指宿市十二町駐在

TEL 0993-52-1359

TEL 0993-22-6422

令和2年度 普及指導活動の展開

1 普及指導活動の推進方針

令和2年度の普及指導活動も、前年度に引き続き「かごしま未来創造ビジョン」や「南薩地域振興の取り組み方針」及び農政の展開方向を考慮し、重要性や緊急性の高い課題を重点化して、普及組織の総合力を発揮するプロジェクト型普及指導活動を展開します。

(1) 農政普及課の普及課題 (太字: 重点課題)

ア 南薩の農業を支える担い手の確保・育成

イ 日本一の茶産地育成

ウ 南薩の特色を生かした戦略的野菜産地の育成

エ 南薩の特色を生かした戦略的果樹産地の育成

オ 南薩の特色を生かした戦略的花き産地の育成

カ 南薩の特色を生かした畑作営農の振興

キ 南薩の特色を生かした畜産産地の育成

ク 水田の生産性向上と地域営農の仕組みづくり

(2) 指宿市十二町駐在の普及課題

ア 指宿の未来を担う精鋭農業者の育成

イ 指宿の農業を持続的に発展させる多様な担い手の確保・育成

ウ 指宿地域の特色を生かした野菜産地の育成

エ 指宿地域の特色を生かした果樹産地の育成

オ 指宿地域の特色を生かした花き産地の育成

カ 指宿地域の特色を生かした畜産産地の育成

2 本年度の特徴的な取組

(1) 南薩の特色を生かした畑作営農の振興 (さつまいも病害対策)

サツマイモ基腐病やつる割れ病等の病害発生ほ場が年々増加していることから、病害対策の仕組みづくりとして、推進体制の検討や優良種苗確保対策、高レベル汚染ほ場対策を行い、防除対

策の確立では、優良苗生産マニュアルの作成や病害マニュアルの実践、病害軽減対策技術の確立に向けては、飼料畑との輪作や休閑、排水対策の実証を行い、モデルづくりに取り組みます。



排水対策実証ほの設置作業状況

(2) 指宿の農業を持続的に発展させる多様な担い手の確保・育成

認定農業者等へのスマート農業技術の導入支援として、「キャベツの大規模経営における先端技術を取り入れた施肥から収穫までの一体的省力化体系の実証」(国庫事業)や、「ハウスオクラにおける環境モニタリング実証」(県単事業)を行い、技術革新及び経営改善に向けた取組を支援します。

3 終わりに

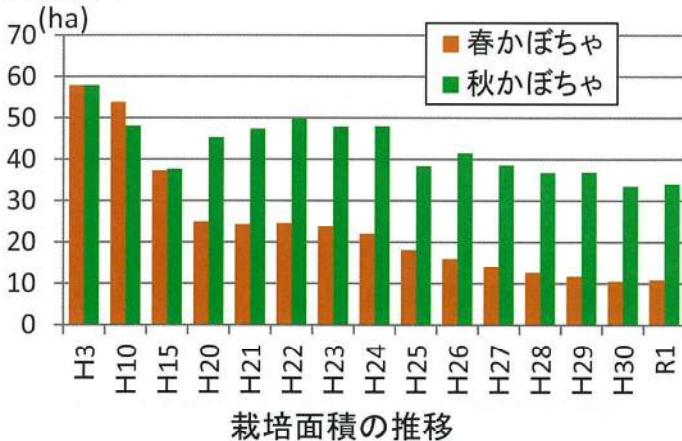
農政普及課では、今後も地域の先導的な役割を担う農業者や関係機関と連携を図りながら、地域全体の収益性向上や新たな地域農業のモデル育成等、将来のあるべき姿の実現に向けた普及指導活動に努めます。

かぼちゃの生産安定・省力化に向けての取組

1. 現状と課題

JA南さつま管内のかぼちゃは、「かごしまのかぼちゃ」として、かごしまブランド出荷団体に認定され、安心・安全で高品質なかぼちゃとして、消費地から高い評価を得ています。

しかし、高齢化等により産地規模は減少傾向にあります。



また、抑制(秋かぼちゃ)では、8月に種子を直まきするので、地温が高くなりすぎて、発芽不良となったり、初期生育が不安定になったりします。



高温による縮葉

そこで、生産安定と産地規模の維持・拡大対策としてセル苗機械移植の実証・普及に向けて、平成29年から取り組んでいますので紹介します。

2. セル苗機械移植による省力化・初期生育安定

いったんセルトレイには種し、適正な地温・土壤水分が確保できる環境におくことで、発芽を揃えることができます。

その後、双葉が展開し、セルトレイの培土に軽く根が巻く頃(は種後7日程度)に、本ぼに移植すると、高温時でも初期生育は安定します。



移植時のセル苗

このセル苗移植は、川辺地区を中心に一部で以前から行われていましたが、手作業による移植であったため、作業負担が大きく、作業時間がかかることが課題でした。

そこで、平成29年に葉菜類の移植機による定植の実証を行ったところ、移植作業時間は10aあたり0.5時間となり、手作業の8分の1の労働時間で済ませることができました。



移植機によるセル苗移植作業

移植後のセル苗は94%の活着率を得られ、その後も問題なく生育し、セル苗機械移植の現地での有効性が実証され、翌年に補助事業を活用して、移植機が1台導入されました。



機械移植後の苗姿

3. 今後の対応

現在、1台の移植機で約3haの移植が行われ、活着率も安定しています。

しかし、導入価格がネックとなり、新たな導入が進んでいません。

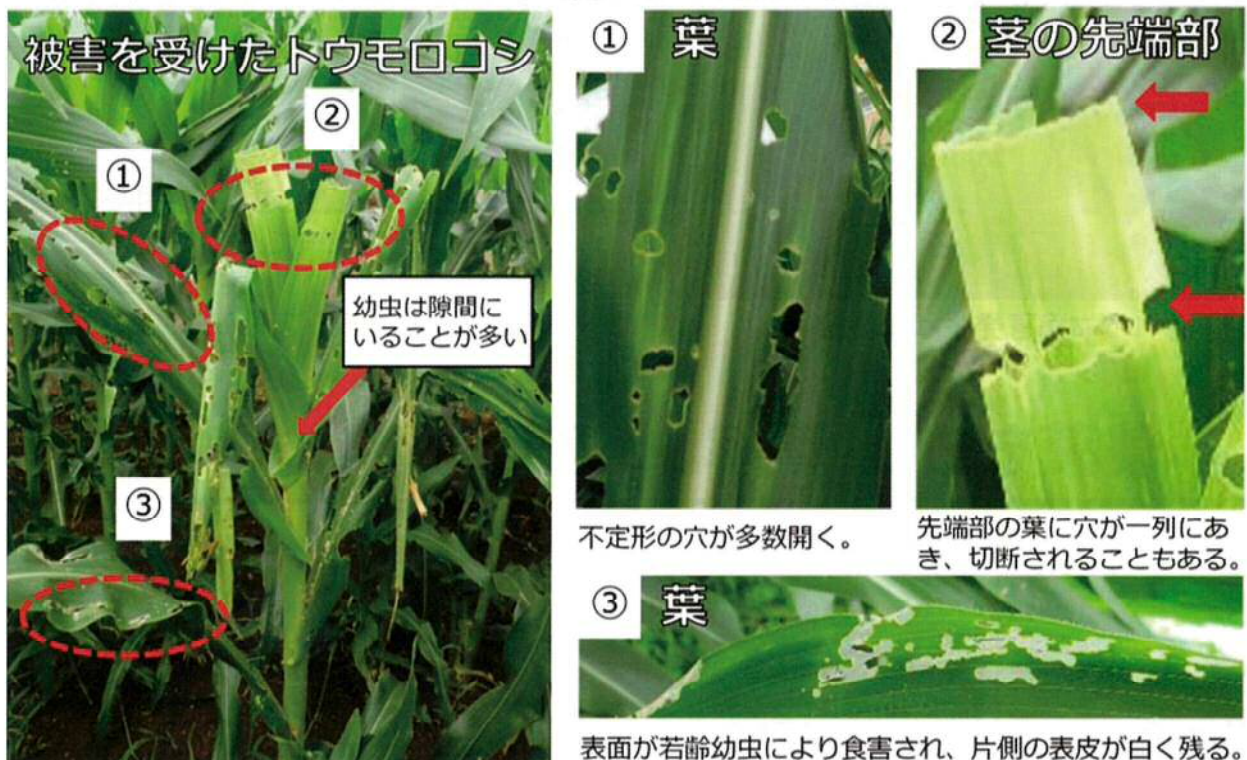
今後、共同利用組織での導入や、葉菜類栽培農家との共同利用などを検討しながら、推進していきたいと考えています。

ツマジロクサヨトウにご注意ください！！

1. 昨年初めて国内で発生したツマジロクサヨトウが、今年も南薩地域の飼料用トウモロコシのほ場で発見されています。
2. 大発生すると、多くの作物で被害を受ける可能性があるため、注意が必要です。
3. 特徴的な被害状況から、虫がいるかどうかを確認することができます。
4. ふ化した幼虫が、芯にもぐって食害を始める前に、殺虫剤を散布するのが効果的です。
5. 発生したほ場は、収穫後のすき込みを12cm以上行い、土壤中に残っている幼虫や蛹を埋没、駆除して次の発生を抑えましょう。
6. 最も効果的な対策は、**早期発見、早期防除**です。ほ場を定期的に見回しましょう。
7. ツマジロクサヨトウらしき虫を見つけた場合は、農政普及課へご連絡ください。

○食害の状況（両作物とも同様の食害状況を示す）〔農林水産省ホームページより引用〕

★ツマジロクサヨトウは、若くて柔らかい部位を好んで食害する



○幼虫の特徴（若齢幼虫（ふ化して間もない小さい幼虫）を発見した場合は、老齢幼虫（さなぎになる前の大きい幼虫）を探すか病害虫防除所に相談すること）



体長が約2cm以上の幼虫で見られる特徴

クルクマの出荷が始まりました

クルクマはタイ原産の夏の切花で、平成7年に南九州市川辺町で栽培が始まりました。現在11戸の生産者が栽培しており、市の特産品としても知られています。5月下旬から収穫が始まり、現在収穫最盛期を迎えています。

毎年、生産者と関係機関・団体で、現地検討会や出荷目揃会などを行い、生育の確認や意見交換を行っています。



クルクマ病害発生状況調査

クルクマには多様な品種があります。今回はその中から、おすすめの品種を紹介します。

- ① **シャローム** (切り花長さ約70cm)
クルクマの代表品種です。薄桃色の花色が特徴で、お盆の仏花として人気があります。
- ② **ルビーチューリップ** (長さ約30cm)
赤色が鮮やかな品種です。
- ③ **エメラルドチョコゼブラレッド** (長さ約50cm)
緑色に赤色の模様がエキゾチックな品種です。



クルクマは10月頃まで、道の駅川辺やすらぎの郷などで販売されます。皆さんも、この夏はクルクマをご自宅に飾ってみませんか。

農薬を知り、理解し、適正に使いましょう

**1 飛散の少ない剤型
飛散低減ノズルを使用**

殺剤の使用 ノズルの向きにも注意

2 十分な時間の余裕をもって幅広く周知

**農薬は周りに配慮し
正しく使用**

飛散防止

3 防除機器・散布装置の機能や性能を正しく理解

安全・適正に使用する

4 周りに影響が少ない天候や時間帯を選択

無風又は風が弱いときを選択
風向きにも注意する

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/ 農薬の適正使用 農林水産省 農研機構

1 農薬使用者の責務 (R2指導指針抜粋)

- (1) 農作物等に害を及ぼさないようにすること
- (2) 人畜に危険を及ぼさないようにすること
- (3) 農薬成分が残留した農作物や飼料作物が原因となって、人に被害を生じないようにすること
- (4) 農薬成分が残留した土壌において栽培した農作物等や飼料作物が原因となって、人に被害を生じないようにすること
- (5) 水産動植物の被害が発生し、かつ、その被害が著しいものとならないようにすること
- (6) 公共用水域の水質汚濁が生じ、かつ、その汚濁に係る水の利用が原因となって人畜に被害が生じないようにすること

2 農薬適正使用重点推進事項

- (1) 適期・適正な防除を行いましょう
- (2) 農薬使用基準を遵守しましょう
- (3) 農薬の飛散防止に努めましょう
- (4) 散布作業者の安全確保に努めましょう
- (5) 周辺環境への危被害防止に努めましょう
- (6) 使用前、使用後の防除器具を洗浄しましょう
- (7) 農薬の適正な管理に努めましょう